

自己評価結果公表について

自己評価結果公表の7つの事項についての会議

令和8年1月15日に放課後等デイサービスゆづきにおいて「自己評価結果公表の7つの事項」についての会議を行いました。その会議内容について公表いたします。

【検討事項】

①利用する障がい児及びその保護者の意向、障がい児の特性、障がい特性

その他の事情をふまえた支援を提供するための体制の設備の状況について

現在、放課後等デイサービスゆづきでは登録人数68名。うち、児童発達支援事業の登録人数は7名。1日平均約11名。

保護者の意向や障がい児の特性、障がい者特性などについては、初回の面談・アセスメント等を含め定期的に保護者と面談を行い、書類等揃え支援に結び付けている。

②従業員の勤務の体制及び、資質の向上のための取り組みの状況について

常勤職員 6 名、非常勤 1 名の 7 名体制。利用者状況の引継ぎを正確に行い、前日の評価及び、当日の療育内容打ち合わせのため、毎朝 30 分程度のミーティングを行い、情報共有や職員の資質向上に取り組んでいる。

③事業所の共用する設備及び、備品等の状況

プレイルームと個室が 2 部屋あり、運動療育と机上での活動を行っている。児童発達支援事業では主にビジョントレーニングや手指動作、聞き取りやことばのやりとり、運筆の課題などを行っている。小学生以上は、社会生活に必要な対人関係スキルや生活スキルを身につけるため、小集団での SST を行っている。カードゲームやボードゲームなども活用し、楽しく学べるように工夫している。プレイルームには感覚遊具や滑り台、ボルダリングなどを設置。運動量も多く、動きも激しいため捻挫やケガも多い。それを防ぐために、シューズの着用、定期的なプレイマットの点検、必要に応じて交換を行っている。

④関係機関及び地域との連携、交流等の取り組みの状況

年に 1 回程度保護者会を実施。今年度は、放課後等デイサービス部門と児童発達支援部門別々に行い、前年度の保護者からの要望をふまえ、どちらも座談会形式で行った。保護者同士、日頃の子育ての悩みを話したり子どもの将来像について語ったりし、有意義な時間を過ごすことができたというご意見をいただいた。

学校との連携や家族の要望がある場合は、必要に応じて学校訪問等を行っている。

今年度初めての取り組みとして、地域の飲食店の協力を得て高学年を対象に職場体験を行った。お店には家族を招き、うどん作りから提供まで一連の仕事を分担して行った。働く意義、喜び、大変さを理解するとともに、地域との交流を通じて社会性を養う貴重な機会となった。

⑤利用する障がい児、及びその保護者に対する必要な情報提供、助言
その他の援助の実施状況

定期的に事業所での面談を保護者と行っており、その際に相談援助を行っている。

⑥緊急時における対応方法、及び非常災害対策

緊急時の対応や非常災害時についての研修実施。外出訓練でも地震訓練、避難訓練等実施。また防災センターにて災害体験も行っている。

防犯訓練は警察官を招き、不審者訓練等実施している。

⑦業務改善を図るための措置の実施状況

通常療育・外出訓練時の出来事や子どもの様子、職員の対応について必ず振り返りを行っている。次の活動につなげていけるように、全職員に児童の特性の周知や改善策の共有を行っている。

まとめ

☆検討結果

療育の中で協力したり勝ち負けのある活動を行いながら、自分の気持ちを伝えることや気持ちの切り替え方等を伝え、一緒に考えていく。

外出訓練では、他学年との関わりの中でコミュニケーションの取り方や異年齢の友達への接し方などを伝えていく。

また、様々な体験を通して社会性を養い、社会のルールやマナーを守ることの大切さを伝えながら、自信につながるように支援していく。

☆自己評価

(児童発達支援部門)

児童発達支援では個別での対応を行い、個々のニーズに合った療育を提供している。また、年長児については友達との活動少しずつ取り入れるなど、スムーズに小学校に入学できる体制づくりを心掛けている。

(放課後等デイサービス)

平日の療育では、少人数の中で友達との関わり方、自分の気持ちの表出の仕方、気持ちの切りかえ方等を伝えている。また SST については、今年度は年間通して一貫性のある取り組みになるよう計画を立てて、職員全員が同じ方向性で子ども達に関わっていけるよう工夫した。土曜日の外出訓練では少し大きな集団の中でのコミュニケーションの取り方、異年齢の友達との

関わりの中での役割分担、イレギュラーな出来事への対応の仕方などを伝えていき、様々な経験を通して自信につながるように支援をしている。

☆改善目標

- より質の高い SST の提供や運動療育の提供
- 緊急時の対応の再認識・感染症対策の徹底
- 防災訓練や不審者訓練実施について保護者に周知する
- 新人教育及び職員教育の充実化
- 職員一人一人のスキルアップをはかるため、より具体的な支援方法を学べるように外部研修を取り入れたり、事例検討を行い実践につなげていけるようにする。
- プレイルームのフロアマットの改善、もしくはケガ防止のためのシューズ着用の提案を保護者に積極的に行うようにする。
- できるかぎり保護者のへのフィードバックはこまめに行い、子どもの様子・状態を共有できるようにしていく。また、困りごとや悩みがある時は、いつでも相談していただけるように、話しやすい環境づくりを心掛けていく。